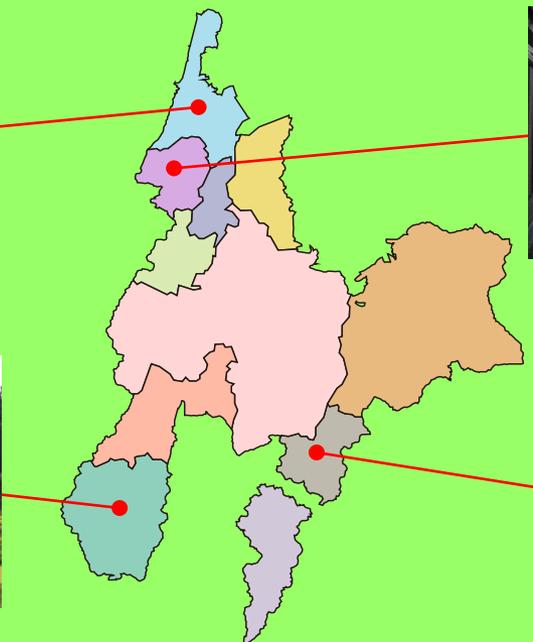


都市構造可視化の活用

～都市計画区域外における地域拠点の検討分析～



新潟県長岡市都市整備部都市政策課

1.都市構造可視化により行いたいこと

人口減少・高齢化による影響により中山間地域等において管理困難な土地が発生。土地の管理方針策定の基礎資料として、都市計画区域外の地域における人口の社会増を可視化し、地域の拠点候補となる場所を検討したい。

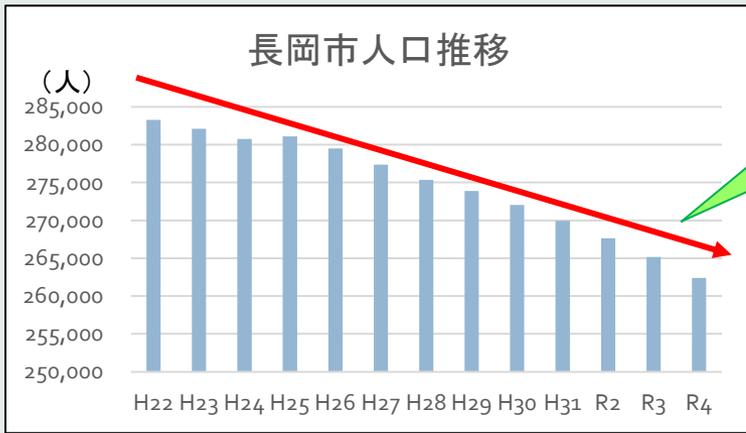


表1 長岡市人口推移 ※住民基本台帳の各年4月1日時点の数値

**管理困難な土地の発生を懸念
新しい土地の利用・管理方針の検討が必要**

都市計画区域内
都市計画マスタープランや立地適正化計画等による方針

都市計画区域外
農振計画等農地・森林の利用・保全に関する方針のみ

**都市計画区域外における状況を可視化し、
新しい土地の利用・管理方針の基礎資料とする**

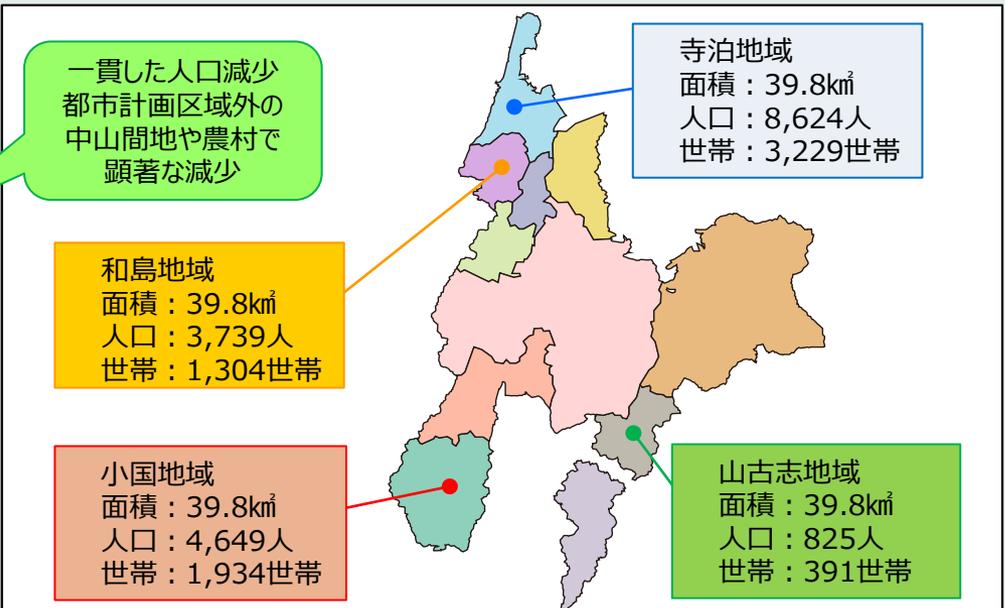


図1 長岡市の都市計画区域外地域 ※人口・世帯数は令和4年4月1日時点の数値

山古志地域：東山連峰の傾斜地に棚田を有し、基幹産業は稲作や養鯉
平成16年発生の中越地震以降人口減少が顕著
小国地域：計4か所の工業団地を有し、鉄工や食品加工等の企業が立地。
和島地域：国道沿いに菓子製造工場に製造業就業者の約4割が就業。
寺泊地域：工業団地では建設業や製造業、海岸沿いでは観光産業が盛ん。

住民基本台帳から平成22年10月～令和3年9月における社会増（市外からの転入＋市内他地域からの転居）及び社会減（市外への転出＋市内他地域への転居）の状況を年齢別・地区別に集計。加えて人口社会増について500mメッシュ図化し、都市機能や災害ハザード情報を重ねて検討。

2.山古志地域における分析

山古志地域における可視化の結果及び分析

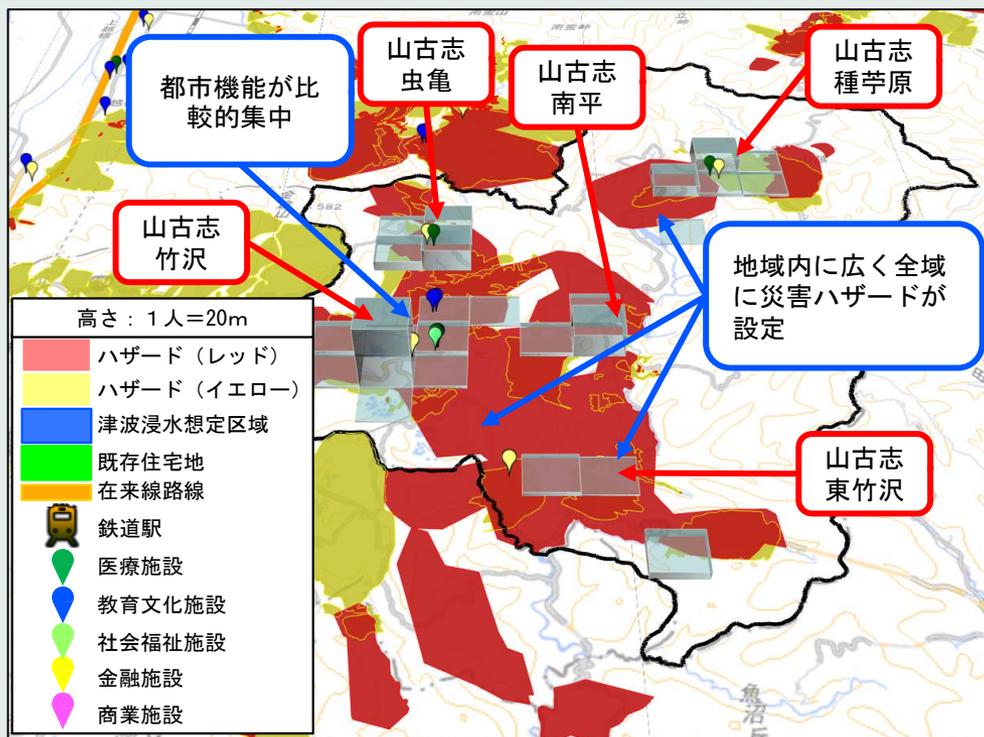


図2 山古志地域の社会増状況 (500mメッシュ図)
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

山古志地域内に広く土砂災害ハザードが指定。集落のある場所はほぼハザードの指定があり、指定のない場所は山や森等の人の居住がないと思われる地域。山古志竹沢地区に都市機能が比較的集中しているが、立地箇所にもハザード指定あり。

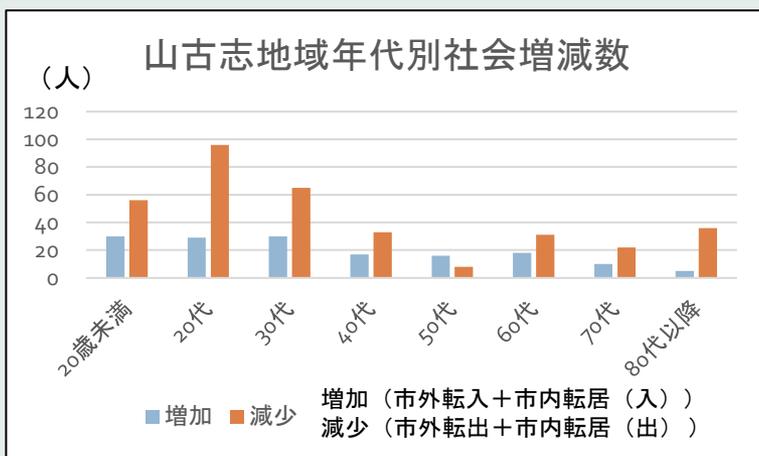


表2 山古志地域年代別社会増減数

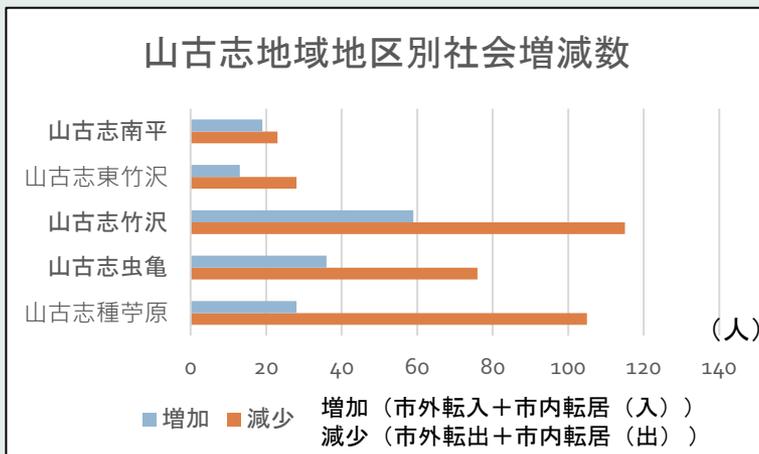


表3 山古志地域地区別社会増減数 (山古志地域内全5地区)

3.小国地域における分析

小国地域における可視化の結果及び分析

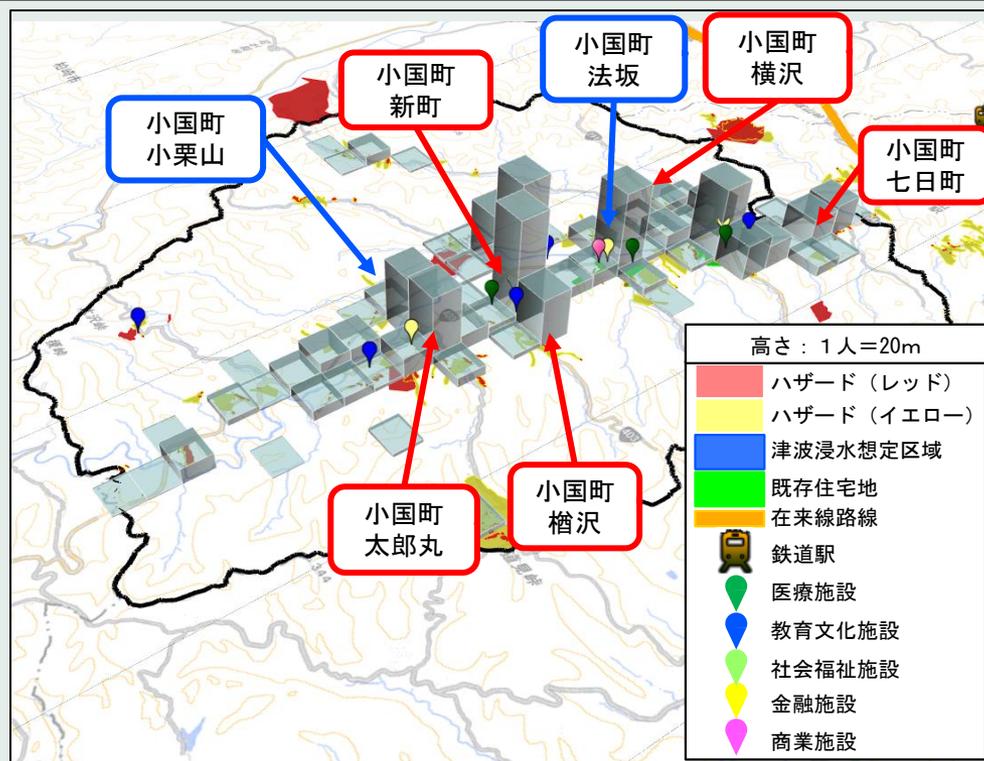


図3 小国地域の社会増状況（500mメッシュ図）
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

- 小国町七日町：比較的若い世代の移住が多い
- 小国町横沢：市営住宅への移住多く、都市機能の多い小国町法坂に隣接
- 小国町新町：都市機能が比較的集中
- 小国町櫛沢：移住者の多くが年齢が高く、特養への入居を目的としている模様
- 小国町太郎丸：移住者の多くが年齢が高く、特養への入居を目的としている模様
- 小国町小栗山：地域内に食品加工工場が立地し付近に外国籍の転入が多い

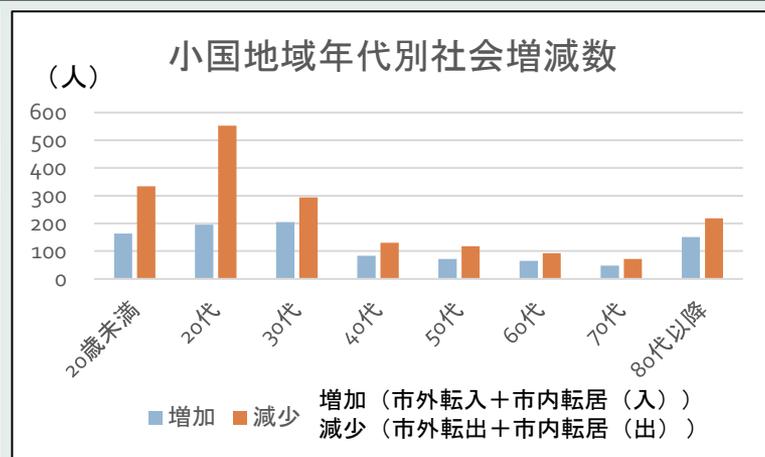


表4 小国地域年代別社会増減数

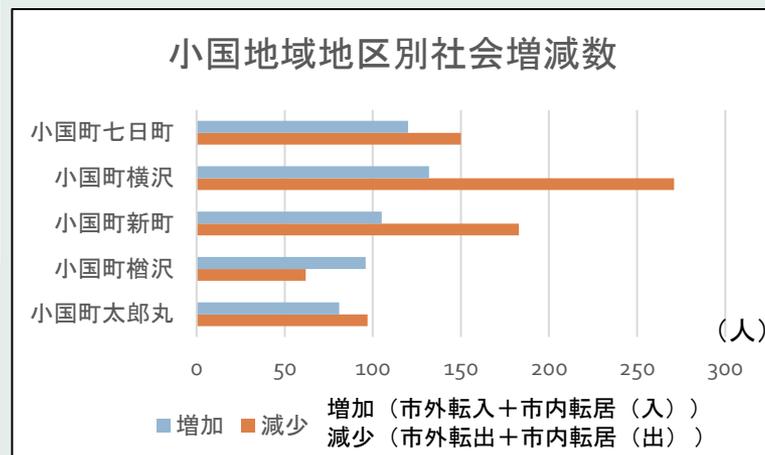


表5 小国地域地区別社会増減数（増加上位5地区）

4.和島地域における分析

和島地域における可視化の結果及び分析

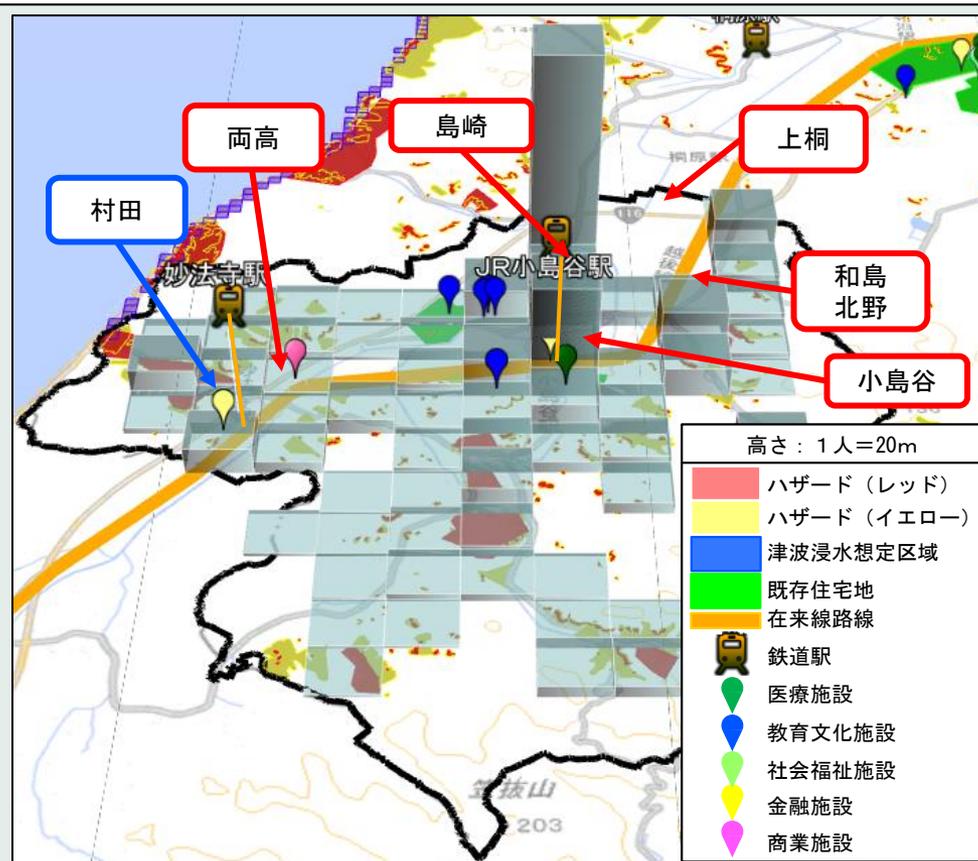


図4 和島地域の社会増状況（500mメッシュ図）

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

島崎：和島支所等の都市機能が集中し、小島谷地区に隣接

両高：区域内にスーパーマーケットが立地

小島谷：JR小島谷駅があり、その他の都市機能も集中し、島崎地区に隣接

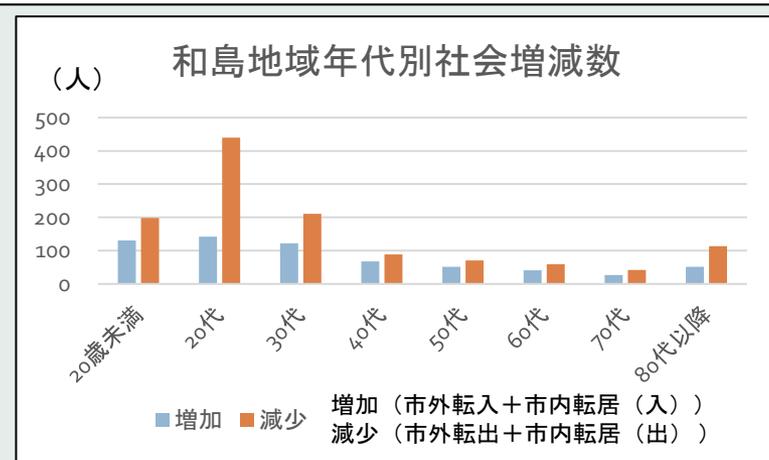


表6 和島地域年代別社会増減数

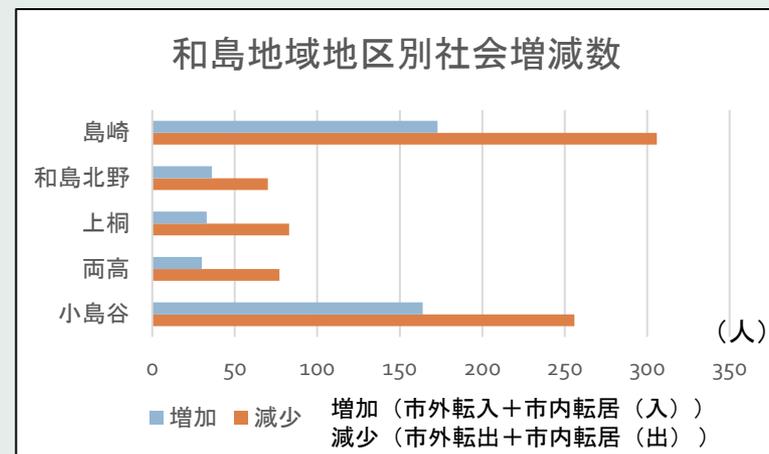


表7 和島地域地区別社会増減数（増加上位5地区）

5. 寺泊地域における分析

寺泊地域における可視化の結果及び分析

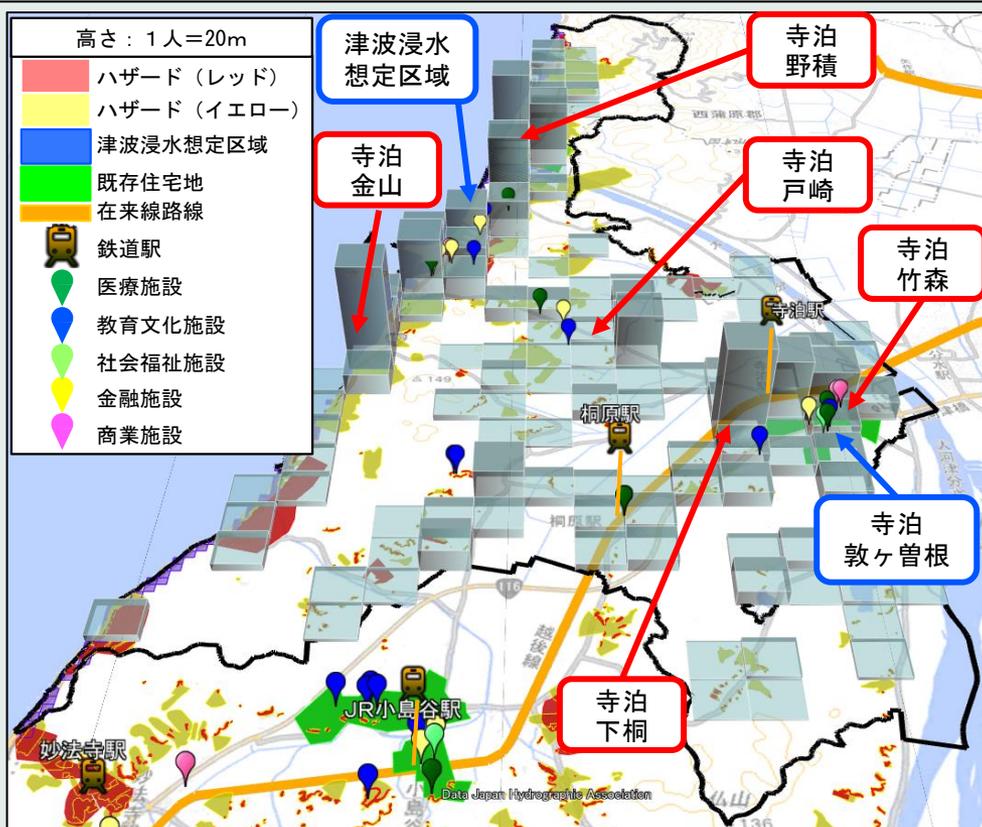


図5 寺泊地域の社会増状況 (500mメッシュ図)

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

- 寺泊下桐：移住者の多くは年齢が高く、特養への入居を目的としている模様
- 寺泊竹森：JR寺泊駅があり、隣接地区にスーパー等の都市機能が集中
- 寺泊野積：外国籍の転入が多いが数週間～1か月程度で転出
- 寺泊金山：移住者の多くは年齢が高く、特養への入居を目的としている模様

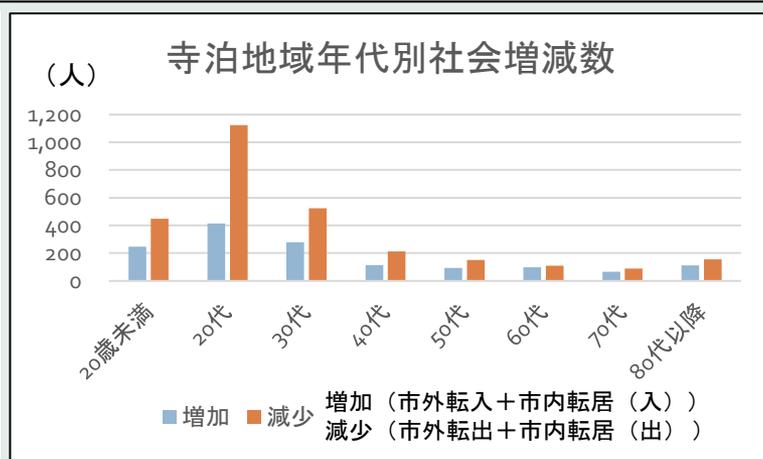


表8 寺泊地域年代別社会増減数

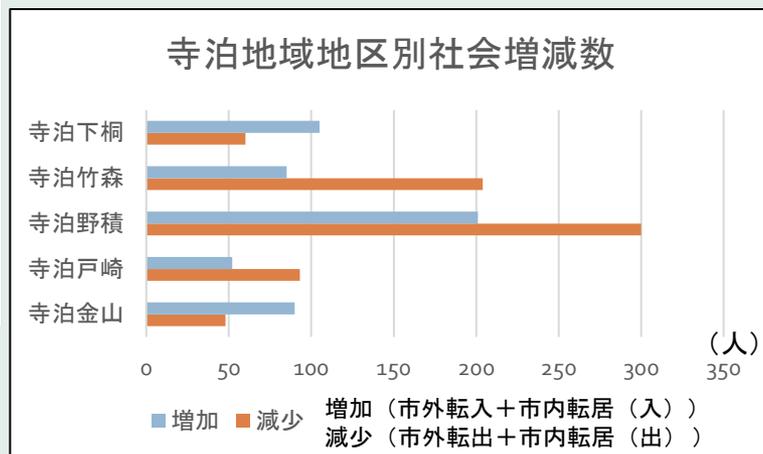


表9 寺泊地域地区別社会増減数 (増加上位5地区)

6.まとめ

社会増の多い地区を把握。都市機能や鉄道駅、既存の住宅が集まる箇所の社会増が多い傾向にあった。今後は災害ハザードや公共交通の利便性等の観点を加味し、各地域の拠点設定と土地の管理方針を検討していきたい。

全般

- ・各地域ともに移住する人より転出する人が多く、人口流出が続いている。
- ・移住・転出ともに30代までの年齢層が多い。
- ・転出より移住の多い地区は特別養護老人ホームへの入居を目的としている模様。

山古志地域

- ・地域内にハザードエリア（レッド）が広がっているため、積極的に移住誘導は出来ない。適切な管理のあり方を中心に検討する。

小国地域

- ・小栗山地区に外国籍の人が集中的に移住する地区を確認。
→当該地区の食品加工業の工場が要因と推測。移住者は当該地区に定住しているため、地域の拠点候補の一つとして検討したい。
- ・スーパー、支所庁舎、ホームセンター等のある法坂地区は移住が多い地区ではなかった。
しかし、隣接する新町地区は既存集落もあり移住人数比較的多く、学校や郵便局等もあるため一体として地域の拠点候補として検討したい。

和島地域

- ・JR小島谷駅のある小島谷地区と支所庁舎付近の島崎地区に移住が集中。
→各地区ともに都市施設が集約されている地区であるため、地域の拠点候補として検討したい。

寺泊地域

- ・野積地区では外国籍の人が集中的に移住。時期は夏季が多い傾向。
→宿泊施設での就業を目的とした一時的な移住と推測。外国籍を除いた場合でも移住者が多く地域の拠点候補として検討したい。
- ・JR寺泊駅のある竹森地区に比較的多く移住が多い。隣接した敦ヶ曽根地区にスーパーマーケットもあり、地域の拠点候補として検討したい。

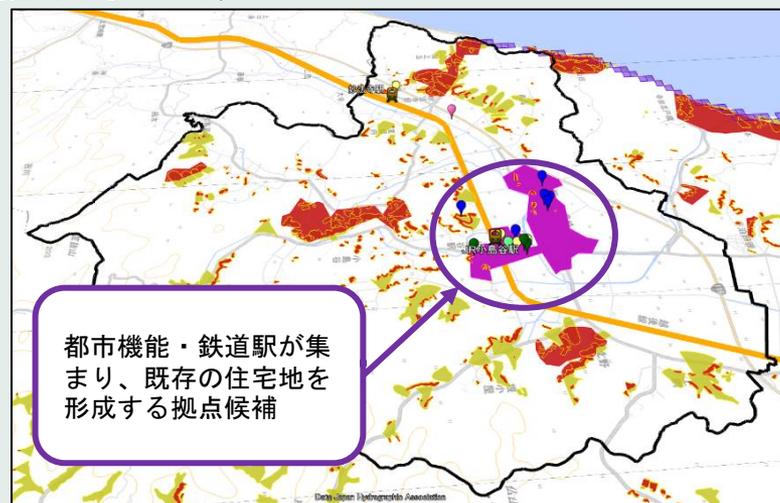


図6 和島地域の拠点候補
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

新潟県長岡市の紹介



本市の紹介

- 新潟県のほぼ中央に位置し、人口約26万2千人の県内第2位の中核中核市（令和4年4月時点）
- 2000年代に実施された市町村合併により、現在11の地域で構成
- 面積は891.06km²で、東西42.6km、南北59.3kmの広がりを見せ、約4割の面積が都市計画区域に制定
- 市の中央部を国内一の長さと流量を誇る信濃川が縦断し、両岸平野部には市街地を形成
- 上越新幹線や関越・北陸自動車道等で首都圏や東北・北陸地方と繋がった、交通の要衝
- 長岡まつり大花火大会は日本三大花火に数えられる
- 電子・精密機械や液晶・半導体など高度なものづくり産業が集積
- 故事「米百俵の精神」を受け継ぎ、人材育成と未来への投資を行う
- 産学官金の連携により、産業、まちづくり等幅広い分野で価値を創造する“長岡版イノベーションモデル”の創出に取り組む



長岡花火 復興祈願花火「フェニックス」



アオーレ長岡



牛の角突き



長岡野菜



市の魚「錦鯉」